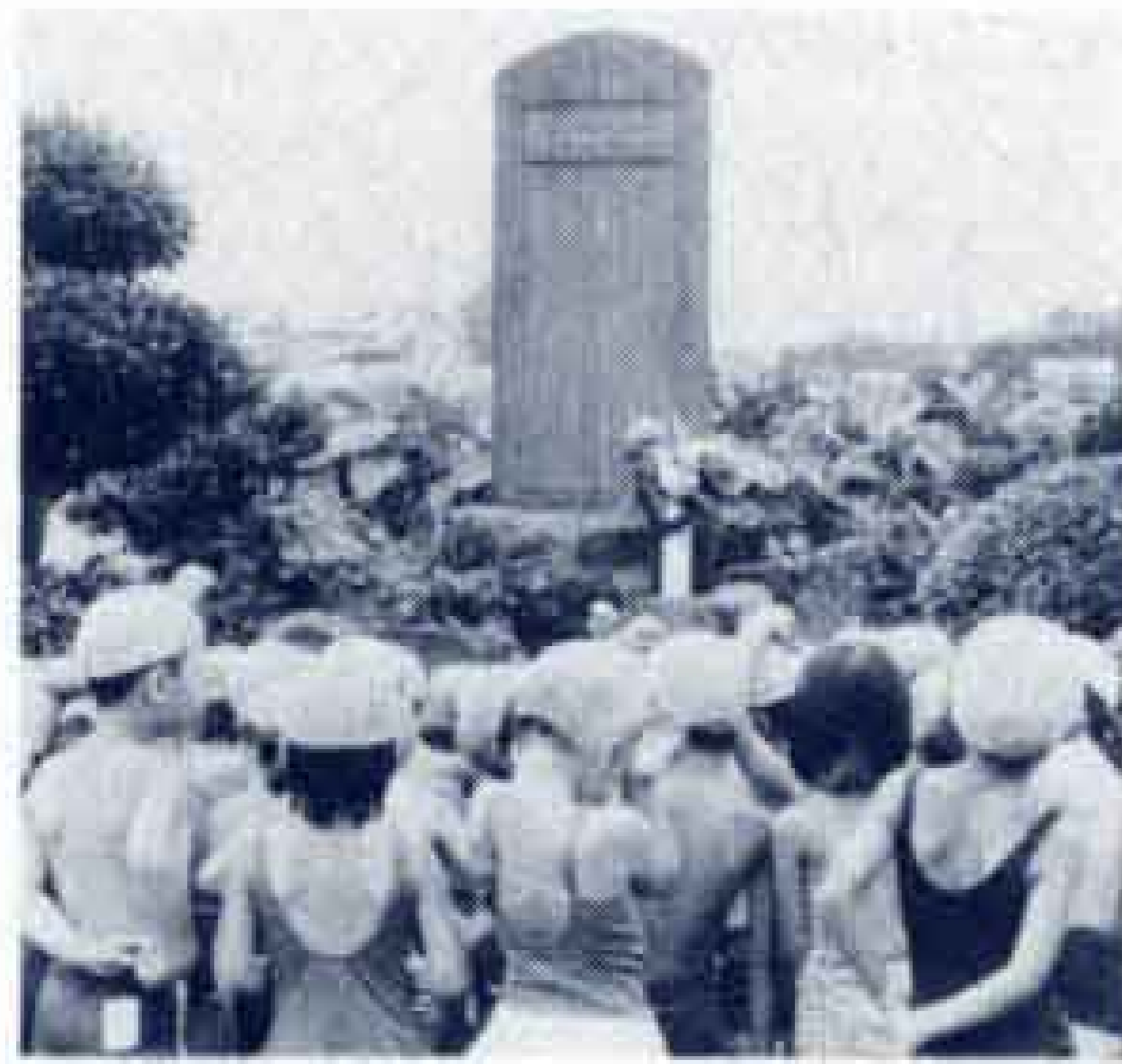


# ふるさとのお話

## 大淵八王子の井戸神様



井戸神様に感謝する大淵幼稚園の子供たち

大淵の八王子1丁目に井戸神様と呼ばれる大きな石の碑と19個の小さな石の碑があります。

これは、水がなくて困った大淵地区の昔の人が井戸を掘り、水が出た19個の井戸の石を水に感謝する意味で祭ったものです。

### 苦労して掘った井戸

昔、大淵は水がなくて水無し村と呼ばれていました。雨が降ると、水をタンクや水かめに集め、飲み水にしたり、洗濯やお風呂に使いました。

でも、水はまったく足りないので、小さい子供たちも遠くの沢まで水くみに行きました。それはそれは大変な仕事でした。特に冬になると雨の降らない日が何日も続き、野菜はしおれ、食べる物も少なくなってしまうほどでした。

そこで、みんなで深い井戸を掘ることにしました。苦労して掘っても水はほんの少ししか出ませんでした。

しかし、あきらめずに何年もかかってあっちこつちを掘り、とうとう水の出る井戸を19個も作りました。村の人たちは「おいしい水をありがとう」

と大喜びしました。そして、井戸を掘ったとき出てきたたくさんの石の中からよい石を1個ずつ選び、19個の石を水の神様としてみんなでお祭りしました。

### 昔は苦労したようです



稲垣さん

井戸神様の隣に住む稲垣和好さん(33歳)は、「このあたりは水がなくて、昔の人は苦労をしたようです。私より二代も三代

も前の方が、ここへつるべ井戸を掘り随分楽になったと聞いています。

今は、水を何の気なしに使っているけど水のありがたみを忘れちゃいけないね」と語ってくれました。

この村は、間門から1キロほど北にある集落で、旧吉永村を構成する北部四ヶ村の中心的村であった。

昔、源頼朝が建久4年(1193年)5月、富士の巻き狩りのとき、ここを通りかかって大きな水たまりの淵を見つけ、家来に鶴がいるかを見させた。しかし、鶴がいなかったので、いつか鶴無ヶ淵というようになったと伝えられている。

### 地名の由来

う ない が ふち  
鶴 無 ヶ 淵



## 富士のあゆみ ⑤

### 鷹岡伝法用水



△凡夫川にかかる二本樋

現在の鷹岡地区から伝法地区にかけて広がる水田地帯は、鷹岡伝法用水(通称二本樋)によって開けたものです。

このかんがい用水路は1186年(文治2年)甲斐源氏出身の植松兵庫之助信継が厚原に移り住み、付近の開発を進めるためにつくったものです。富士宮市山本地先の潤井川に取水口をもち富士山麓特有の傾斜地をうまく利用して天間南部から入山瀬、久沢、厚原を経て伝法まで全長6.4キロあります。

今日まで800年間、その間幾度か改修され、整備されてきましたが、この用水路のもたらした地域開発の功績ははかり知れないものがあります。

二本樋を管理した植松家の長屋門は、広見の歴史民俗資料館に復元されています。

### こちら編集室

知っているようで知らなかった紙のこと。実は、編集室でも「へえ〜ほお〜、初耳」なんて話がありました。みなさんはどうでしたか? レポーターの伊藤さんご苦労さま。